



市民が参加し検討が進められる自治基本条例

# 市の主要課題に意見飛び交う



市は、市民の皆さんから市の施策や地域の課題について意見を聴く市政懇談会を、11月6日から16日にかけて開催しました。今回市から議題として示したのは「自治基本条例」「総合水沢病院等医療問題」「岩手競馬」の3つ。相原正明市長や市の幹部職員が各自治区を巡り、議題の説明や活発な意見交換を行いました。開催した5会場合わせて500人を超える市民が参加し、市の課題に対するさまざまな意見が飛び交いました。

## 自治基本条例について

### 意見・質問

行政が税を徴収して行う範囲と、住民が本来活動すべき責務の範囲はどこまでか。今では行政から下りてきた分があり過ぎて、税外の負担が増えている。条例の文言では抽象的過ぎる。

【回答・佐藤郁夫総務部長】今までは、行政が決めたことに沿って住民が生活してきました。これからは住民が自らの地域をどうつくっていくのかを考えることで、おのずと責任も出てきますし、理想的な地域づくりができるようになっていきます。権利もあるが責任もあるという

形で、地域をみんなできつくり上げていきたいと思います。住民自治を目指す上で、協働の社会が求められています。条例を制定する段階では、具体的に行政と住民の責務の範囲が明確に示せないかもしれませんが、今後もう少し整理をした状態

### 意見・質問

自治基本条例に違反した場合とどういう処罰があるのか。首長が代わり、方針を何ら打ち出さない場合、継承していくことは困難になる。

【回答・菅原英記総務課長】自治基本条例に違反した場合に市の責任を明確にすべきとのこと

態で説明したいと思います。

ですが、この条例は市のまちづくりの基本的な部分を定めるものであり、罰則はそぐわないのではないかと考えられます。現在は罰則を盛り込まない方向で進めています。自治基本条例は、これまで市長マニフェストの下に進めてきましたが、条例として制定された以上は市の総意となります。たとえ首長が代っても、引き継ぎ守られていくべきものであります。

### 意見・質問

自治基本条例で規定される住民投票について、実際に請求する場合など、どのような検討がされているのか。

【回答・菅原総務課長】住民投票は自治基本条例制定後に、別の条例として設置する考えです。現在議論となっているのは対象となる年齢要件を何歳からにするかで、他市では一番若いところ

で16歳、あとは18歳や20歳となっているようです。それから請求に必要な署名数も、一般的には市民の3分の1や10分の1となっていますが、どの程度にするかが課題です。今後、意見を踏まえて詰めていきたいと思っています。

## 総合水沢病院等医療問題について

### 意見・質問

水沢病院は民間であれば民事再生の状態とのことだが、県立江刺病院も赤字だと聞いている。水沢病院の経営状況を診断した公営企業アドバイザーは「県立病院との統合を検討すべき」と言っており、両病院の統合を考

える気持ちはないか。【回答・相原市長】アドバイザーからは、水沢病院だけで解決するのではなく、胆江医療圏の中で、県立病院と一緒にした方がよいのではないかとといった提言を受けています。現在、水沢病院の枠を超え、早急に抜本的な改革を検討するための新組織を立ち上げ、アドバイザーの提言に対する答えを出そうとしています。

ほかにもアドバイザーからは、他病院との違いを明確化するよう提言を受けましたが、そうしたようにも医師確保がままならない状況です。医師派遣元の大学からは、むしろ引き揚げたいとさえ言われています。5年、10年先を見据え、県立胆沢病院と水沢病院とが協議した上で、医師の派遣をお願いすることが必要な時期に来ていると感じています。

### 意見・質問

水沢病院の診断をした公営企業アドバイザーは、「選択と集中でほかの病院との違いを明確にすべき」と言っているが、本当に実現できるのか。

### 意見・質問

胆沢病院の産婦人科の医師がいなくなったのであれば、水沢病院で開設するよう頑張ればいいのではないかと。

【回答・相原市長】これから先

### 意見・質問

医師に1人で来てくれと要望するから、かえって医師は来ない。しっかりと理念を打ち出し、何人かのチームで来てくれと話したほうが、医師は集まりやすいのではないかと。

【回答・相原市長】お話の趣旨は理解します。しかし、医師の研修制度が3年前に始まり、大学の若い医師が大会の総合病院などに行つたまま戻つてこな

はそのような方向が大事になります。医師確保の方法は、東北大学や岩手医大にお願いをして来ていただくのが基本ですが、東北大の教授からは、派遣する余裕がないので、胆沢病院と水沢病院の機能分担をした上で要望に来てほしいという話もされています。

すぐにたくさん医師を確保することはできないので、中期的計画になるかもしれませんが、より充実した医療を提供できるよう体制づくりに取り組んでいきたいと思っています。それが結果として、病院経営にも貢献していくものと思います。

いという現実があります。大学にも若い医師がいなくなつてしまつたのです。

そのような中、市は9月議会での承認を経て、独自の医師奨学資金制度を設けました。これは、医学部で学ぶ学生に、毎月20万円、入学時に720万円を貸し付ける制度です。奨学金を利用した人には将来、奨学金を利用した年数分、市の病院や診療所に勤務していただく制度です。

経営改善が求められる水沢病院

